

迫る！ 新たな大しめ縄の完成

令和8年、8年ぶり8回目の架け替え

この夏、出雲大社神楽殿に掛かる日本最大級の大しめ縄が新たに架け替わります。このまちで育てられた素材で、このまちに住む人たちの手で作られる大しめ縄。昨年春の田植えから始動した、足かけ2年の一大プロジェクトです。



※前回の様子です

出雲大社からの依頼に誇り

大しめ縄の制作を担っているのは、飯南町注連縄企業組合の職人たち。飯南町大しめなわ創作館内で、全国から注文が入るしめ縄を日々作り続けています。収穫したあか穂もちの稲わら一本一本から、日本最大級といわれる巨大なしめ縄が作られています。

7月18日、制作の最終段階である「撚り合わせ」が大しめなわ創作館で行われ、21日には、出雲大社神楽殿へ奉納されて今回のプロジェクトが完了します。(天候により、日程が変更になる場合があります。)

出雲大社奉納までのあゆみ

そもそも、出雲大社神楽殿の大しめ縄と飯南町との関わりは、昭和30年代にまでさかのぼります。町内に出雲大社分院があったことで、大しめ縄制作を依頼されたことが始まりでした。飯南町は、しなやかで品質の良い稲わらの産地で、昔から冬仕事としてわら細工をしてきた技術が、大しめ縄制作に活かされています。

昭和56年、神楽殿が現在の建物に新しく建て替わったことを機に、神楽殿の大きさに合わせた大しめ縄の制作を依頼され、日本最大級の大しめ縄が誕生しました。

今回の架け替えは、前回の平成30年以来、8年ぶり8回目。日本の神話や歴史と深く関わる出雲大社から制作の依頼があることは、まちにとって大きな誇りです。現在、大しめなわ創作館の職人が、まさに全身全霊をかけて取り組んでいる最中です。

職人技を目の前で

大しめ縄の架け替えが決定してから出雲大社に奉納するまで、かかる時間と作業量は膨大です。それもそのはず、現在架かっている出雲大社神楽殿の大



田植え

ワラの丈が高く成長する「あか穂もち」という品種を栽培。大しめ縄制作の初めの一歩です



青刈り・乾燥

穂の付く前のワラが青いまわり取り。大しめ縄制作時は例年の約1.5倍を収穫。しっかり乾燥させ、傷んだワラなどは手作業で選別します



中芯づくり

直径20から30cmに束ねた棒状のワラを何本も重ねて、直径110cmまで太くします。強度の高いしめ縄を作るための重要な作業です



しめのこづくり

大しめ縄に吊るされる、直径160cm、高さ200cm、重さ250~300kgの円錐形のしめのこ。底面は美しく切り揃えられます



コモ包み

ワラをじゅうたん状に束ねたコモで中芯を包み、2本の大きな縄を作ります。大しめ縄の見栄えを決める作業です

令和8年
7月21日(火)
出雲大社神楽殿へ
奉納



奉納

完成した大しめ縄は、飯南町からトラックで運ばれます。出雲大社で3つのしめのこが取付けられ、古い大しめ縄と入れ替えます



撚り合わせ

コモ包みして直径120cmほどの太さになった2本の縄を撚り上げます。吊り木をロープで固定すると、いよいよ出雲大社へ

飯南町大しめなわ創作館

10時~17時 火曜日定休
作業の都合上、臨時休業をする場合があります

料 見学無料
☎ 0854-72-1017

しめ縄は、長さ13・6メートル、重さ5・2トンと日本最大級。町内で育てられた稲わらのみを使用して、職人が一つ一つ手作業で作られています。

来月の撚り合わせまで、大しめなわ創作館内で制作作業が進められ、大しめ縄を形作るパートや職人の作業風景など、貴重な様子を間近で見学することができます。この機会に、大しめなわ創作館を訪れてみませんか。

しめ縄職人、工房責任者
藤原 健次 さん
しめのこづくりを担当
大しめ縄の制作に携わるのは5回目、しめのこを担当するのは3回目です。何度やっても、大しめ縄を作るのはプレッシャーを感じます。後に続く職人を育てようと、今回、若い職人に技術を伝授。3つ目のしめのこは、私が手伝わなくてもほとんどやり遂げました。自分の後も繋いでいってくれるのはとても心強いです。

しめ縄職人
荻野 英明 さん
中芯づくりを担当
中芯は、上からコモで巻かれるため外から見えませんが、しめ縄の最終的な形を決める工程のため、とても気を使いました。大しめ縄制作の経験は、5年前に常陸国出雲大社に納めて以来。今回の架け替えは、その時の経験を活かそうと、昨年はずっと構想してきました。心を込めて作り上げた大切な大しめ縄です。

大しめ縄
完成にかける
思い

飯南町長
塚原 隆昭
架け替えが決まり、まちにとって特別な大イベントになることを嬉しく誇りに思うと同時に、気が引き締まる思いです。田植えから始まった大しめ縄制作は、長い期間をかけて多くの人が携わり、思いが込められます。継承されてきたしめ縄の技術を次の世代にも伝えていきたい。職人が思いを込める大迫力の撚り合わせを、ぜひ見ていただきたいです。